

野菜の需給・価格動向レポート(平成24年6月18日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	5月の価格動向			6月の価格動向		生育及び価格の6月の見通し			
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	上旬				
		中旬	下旬						
葉菜	キャベツ	84.37	109	85	67.2	53	・入荷見込量: 14,558t (99) ・主産地: 千葉(47)、茨城(24)、群馬(8)、東京(6)	・千葉産は、順調な生育となり、作付が増えたこともあり平年より多めの出荷になっており、今後も月末までは平年より多めの出荷の見込み。茨城産は、一部地域の雹害の影響もあり、少なめの出荷になっており、今後も少なめの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が潤沢と見込まれることから、価格は平年を下回って推移する見込み。	
		86.69	129	93	81.66	71	・入荷見込量: 3,700t (101) ・主産地: 茨城(38)、愛知(22)、兵庫(13)、大分(8)		
	ねぎ (関東: 白ねぎ 関西: 青ねぎ)	264.1	286	330	264.1	295	・入荷見込数量: 4,630t (100) ・主産地: 茨城(64)、千葉(19)、輸入(7)	・茨城産は、作柄が順調で平年並みの出荷になっている。下旬から7月中下旬までが出荷のピークで、今後出荷量が増加する見込み。千葉産は、細め傾向で、少なめの出荷の見込み。 ・茨城産の出荷が順調と見込まれることから、価格は平年並みに近づく見込み。	
		334.73	347	357	334.73	381	・入荷見込数量: 220t (99) ・主産地: 徳島(27)、大阪(18)、奈良(15)、香川(14)、三重(9)、高知(9)		
	はくさい	67.05	54	69	67.05	48	・入荷見込量: 5,562t (95) ・主産地: 長野(46)、茨城(38)、群馬(15)	・茨城産は、ピークが過ぎて減少傾向となっており、6月18日の週で切り上がる見込み。長野産は、作柄が良好で大玉での出荷となっていることに加え、この時期の出荷の作付面積が増加していることから、平年を大きく上回る出荷となっている。今後も多めの出荷の見込み。 ・潤沢な出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。	
		77.96	82	97	77.96	69	・入荷見込量: 2,800t (99) ・主産地: 長野(72)、茨城(18)		
	ほうれんそう	376.1	581	407	376.1	366	・入荷見込量: 1,370t (100) ・主産地: 群馬(27)、茨城(18)、栃木(14)、埼玉(13)、岩手(12)	・群馬産は、順調な出荷となり、今後も平年並みの出荷となる見込み。茨城産も、順調な出荷となっている。栃木産は、順調な出荷となっていたが、最近の気温の低下で、今後出荷量が減少する見込み。 ・群馬産と茨城産の出荷が順調と見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。	
		396.89	556	525	396.89	464	・入荷見込量: 500t (99) ・主産地: 岐阜(79)、北海道(9)		
	レタス	156.23	178	159	120.13	116	・入荷見込量: 7,680t (100) ・主産地: 長野(71)、群馬(22)	・長野産は、適温、適雨により作柄も良く大玉傾向で、平年より多めの出荷となっており、今後も多めの出荷の見込み。群馬産も、平年並みの出荷の見込み。 ・長野産の出荷が潤沢と見込まれることから、価格は平年をやや下回って推移する見込み。	
		165	180	171	132.22	125	・入荷見込量: 1,750t (104) ・主産地: 長野(96)		
たまねぎ	71.02	93	94	71.02	100	・入荷見込量: 10,898t (95) ・主産地: 佐賀(46)、兵庫(12)、香川(12)、輸入(6)、愛知(3)	・佐賀産は、貯蔵ものの出荷となっているが、定植時の降雨等の影響で平年の7割程度の出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。兵庫産と香川産も、小玉傾向で少なめの出荷となり、今後も平年より少なめの出荷となる見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。		
	71.02	90	101	71.02	110	・入荷見込量: 3,100t (90) ・主産地: 兵庫(71)、佐賀(16)、大阪(6)			
果菜	きゅうり	189.84	259	177	189.84	148	・入荷見込量: 7,106t (102) ・主産地: 埼玉(33)、群馬(16)、福島(13)、茨城(10)、千葉(8)、栃木(6)	・埼玉産は、成り疲れで出荷が一時的に減少しているが、下旬から7月上旬にかけて増加する見込み。群馬産は、出荷の終盤を迎え減少傾向で、徐々に切り上がる見込み。 ・群馬産の出荷が少なめと見込まれることから、平年を下回っている価格は平年並みに近づく見込み。	
		177.22	234	193	177.22	143	・入荷見込量: 1,700t (115) ・主産地: 宮崎(25)、愛媛(12)、福島(10)、高知(10)、香川(9)、群馬(6)、徳島(6)		
	トマト	209.59	340	344	209.59	331	・入荷見込量: 8,650t (105) ・主産地: 栃木(25)、茨城(15)、千葉(15)、愛知(13)、熊本(9)、群馬(7)、埼玉(6)	・栃木産は、冬場の低温の影響で根の張りが弱い小玉傾向で、前年より少なめの出荷となっている。茨城産は、生育が順調で、平年並みの出荷となっている。千葉産は、平年より少なめの出荷の見込み。 ・栃木産と千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		228.53	335	334	228.53	316	・入荷見込量: 1,650t (111) ・主産地: 熊本(27)、愛知(15)、北海道(14)、石川(13)、福岡(8)、徳島(6)		
	なす	297.07	297	321	297.07	341	・入荷見込量: 3,770t (100) ・主産地: 高知(32)、群馬(17)、福岡(17)、茨城(8)、栃木(7)、埼玉(4)	・高知産は、出荷の終盤となり、減少傾向で、7月上旬までの出荷となる見込み。群馬産は、最近の低温と日照不足の影響で少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。福岡産は、出荷の終盤となり徐々に減少傾向で、7月上旬までの出荷となる見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		271.01	299	317	271.01	316	・入荷見込量: 1,150t (127) ・主産地: 大阪(25)、高知(24)、熊本(14)、岡山(13)、福岡(10)、奈良(7)		
	ピーマン	308.36	316	299	251.5	231	・入荷見込量: 2,158t (102) ・主産地: 茨城(91)	・茨城産は、出荷のピークを迎え出荷量が増加していたが、今後は出荷の終盤を迎えて徐々に減少する見込み。 ・出荷量の減少が見込まれることから、平年を下回って推移している価格は平年並みに近づく見込み。	
		283.1	299	262	266.65	239	・入荷見込量: 360t (100) ・主産地: 高知(42)、宮崎(32)和歌山(12)		
	根菜	だいこん	86.59	104	90	86.59	74	・入荷見込量: 8,031t (95) ・主産地: 青森(61)、千葉(27)、北海道(5)	・青森産は、残雪による作業の遅れにより10日程度の遅れとなっているが、肥大も進み下旬から本格的な出荷となる見込み。千葉産は、平年並みの出荷となっているが、出荷の終盤となり、まとまった量の出荷は中旬までの見込み。 ・青森産の出荷が順調と見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
			94.24	95	86	94.24	75	・入荷見込量: 2,400t (90) ・主産地: 青森(45)、北海道(25)、鹿児島(7)、長崎(6)	
にんじん		156.99	113	131	133.01	143	・入荷見込量: 6,906t (98) ・主産地: 千葉(75)、埼玉(11)、輸入(3)	・千葉産は、出荷のピークを迎えているが、播種時期の天候不順の影響で平年より少なめの出荷となっている。埼玉産は、作付面積が減っていることに加えて傷みも散見されることから、平年よりは少なめの出荷の見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は平年をやや上回って推移する見込み。	
		148.36	100	112	132.62	121	・入荷見込量: 1,950t (85) ・主産地: 長崎(43)、和歌山(25)、徳島(14)、兵庫(6)		

種類	5月の価格動向			6月の価格動向		生育及び価格の6月の見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	
		中旬	下旬			
いも	-	309	326	344	326	・入荷見込量: 290t (-) ・主産地: 輸入 (31)、鹿児島 (30)、千葉 (22)、宮崎 (12) ・鹿児島産は、順調な生育となり、平年並みの出荷の見込み。千葉産も順調な出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
		371	459	347.9	379	
ばれいしょ	131.8	105	90	131.8	83	・長崎産は、天候の安定により順調に収穫作業が進み、平年より多めの出荷となっているが、今後は出荷の終盤を迎え、徐々に減少する見込み。静岡産も、順調に収穫作業が進み、平年より多めの出荷となっている。 ・潤沢な出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。
		110	95	131.8	84	

- 1) 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)。
- 2) 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)。
- 3) 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
- 4) 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。さといもは、前年実績。
- 5) 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
- 6) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、4月の1人当たりの生鮮野菜の購入量は、4,620gで前年比96%、購入金額は、1,904円で同106%となり、購入量は前年をやや下回り、購入金額は前年をかなり上回った。 また、小売物価統計によると、5月のキャベツの小売価格は、180円で過去5か年平均比105%、レタスは、438円で同115%となり、キャベツは過去5か年平均をやや上回り、レタスはかなり上回った。	生鮮野菜の購入量及び金額 (1人当たりの購入量、金額)								主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移 (単位:円/kg)													
	年		過去5か年平均		平成23年		平成24年		キャベツ		レタス		過去5か年平均		平成24年		5か年比					
	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	前年比	金額(円)	前年比	過去5か年平均	平成24年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成24年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成24年	5か年比(%)			
1月	4,263	1,528	4,310	1,573	4,189	97	1,634	104	1月	166	230	138	547	690	126	2月	177	247	140	508	691	136
2月	4,403	1,552	4,267	1,629	4,499	105	1,735	107	3月	188	238	126	461	692	150	4月	238	262	110	462	513	111
3月	4,815	1,721	4,867	1,788	4,584	94	1,851	104	5月	172	180	105	380	438	115	6月	144		0	350		0
4月	4,779	1,812	4,796	1,789	4,620	96	1,904	106	7月	160		0	324		0	8月	156		0	463		0
5月	5,109	1,894	5,171	1,820		0		0	9月	155		0	562		0	10月	161		0	505		0
6月	5,043	1,872	4,904	1,857		0		0	11月	162		0	371		0	12月	153		0	453		0
7月	4,441	1,696	4,362	1,759		0		0														
8月	4,348	1,719	4,392	1,717		0		0														
9月	4,831	1,804	4,598	1,803		0		0														
10月	5,262	1,862	5,037	1,884		0		0														
11月	5,016	1,636	5,091	1,613		0		0														
12月	5,145	1,834	4,998	1,792		0		0														

資料:総務省「家計調査報告(二人以上世帯農林漁家世帯を除く)」

資料:総務省「小売物価統計調査報告」

3 野菜の輸入動向

5月の輸入を植物防疫統計でみると、たまねぎは前年比122%(中国は同115%、ニュージーランドは同251%)の2万8千トン、にんじんは同88%(中国は同91%、ニュージーランドは同89%)の6千トン、ねぎは同116%(中国は同116%)の4千トンとなり、たまねぎ、ねぎは前年を大幅に上回り、にんじんは、かなり下回った。	野菜の輸入数量の推移 (単位:トン、%)								主な野菜の輸入動向 (単位:トン、%)					
	区分	平成22年		平成23年		平成24年1~4月		平成24年4月		品目	輸入先	平成23年5月(A)	平成24年5月(B)	(B)/(A)
		前年比	前年比	前年同期比	前年同月比	中国	ニュージーランド	中国	ニュージーランド					
生鮮野菜	820,687	133	915,091	112	391,613	104	98,458	104	たまねぎ	合計	22,886	27,963	122	
加工野菜	1,677,840	107	1,803,510	107	602,365	103	159,378	104		中国	17,994	20,766	115	
野菜合計	2,498,527	114	2,718,600	109	993,978	103	257,836	104		ニュージーランド	2,162	5,426	251	
うち中国産野菜合計	1,284,449	117	1,409,984	110	498,607	106	128,622	108	にんじん	合計	7,131	6,264	88	
中国産シェア	51		52		50		50			中国	5,376	4,904	91	
										ニュージーランド	1,203	1,067	89	
									ねぎ	合計	3,587	4,161	116	
										中国	3,582	4,158	116	

資料:ベジ探(原資料)財務省「貿易統計」

資料:農林水産省「植物防疫統計」。平成24年5月は、速報値である。

4 トピック — トマト・トマト加工品の需給動向 —

トマト・トマト加工品の需要は、近年、多くの野菜の需要が減少傾向で推移している中で、食の洋風化等により、ほぼ横ばい状態となっているが、最近のトマト・トマト加工品の需給に関して、注目すべき動きがみられる。

その一つがトマト加工品の輸入数量であり、3月、4月と前年同月を上回り、需要が旺盛だったことが伺える。中でもトマトジュースは、3月が対前年同月比214%、4月が同343%と大きく増加している。

また、トマトの購入数量にも、3月以降特徴がみられる。今年のトマトの価格は、主産地の九州の曇天等の影響により出荷量が減少し、小売価格が平年より高めに推移してきた。トマトの小売価格と購入数量の関係をみると、価格が高いと購入数量が減少する傾向がある中で、3月以降は、傾向値を上回る購入数量となっており、トマトの需要が好調だったと推測される。

この2月には、「トマトから脂肪肝、血中中性脂肪改善に有効な健康成分を発見」との研究結果が発表され、メタボリック症候群の改善に役立つのではと注目を集めたことが、以上のようなトマト・トマト加工品の需要増に大きく寄与したものと考えられる。

さらに5月には、「トマトが飲酒後の血中アルコール濃度を低下させることをヒトで確認」との研究結果が発表されたところであり、今後のトマト・トマト加工品の需要の動向が注目される。

トマト加工品の輸入数量の推移

資料:ベジ探(原資料)「貿易統計」

トマトの小売価格と購入数量の推移

資料:総務省「家計調査(二人以上世帯農林漁家世帯を除く)」「小売物価統計調査報告(東京都区部)」

うちトマトジュースをみると

トマトジュースの輸入数量の推移

資料:ベジ探(原資料)「貿易統計」

トマトの小売価格と購入数量の相関

(平成19年1月~24年4月)

相関係数: -0.6287

平成19年1月~24年4月のトマトの購入数量(総務省「家計調査(二人以上世帯農林漁家世帯を除く)」)とトマトの小売価格(総務省「小売物価統計調査報告(東京都区部)」)との相関をみた。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、須藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。